



トレース

このセクションは、次のトピックで構成されています。

- 「トレース ファイルについて」 (P.4-1)
- 「コンポーネントのトレース ファイル」 (P.4-2)
- 「コンポーネントのトレース ファイルの設定」 (P.4-2)
- 「トレース レベル オプション」 (P.4-3)
- 「トレース レベル オプションの設定」 (P.4-7)
- 「トレース ファイルの表示および解釈」 (P.4-8)
- 「トレース ファイルの表示」 (P.4-8)
- 「トレース ファイルの解釈」 (P.4-8)
- 「スレッド ダンプ トレース ファイル」 (P.4-9)
- 「スレッド ダンプ トレース ファイルへの書き込み」 (P.4-9)
- 「スレッド ダンプ トレース ファイルの表示」 (P.4-9)
- 「Cisco Unified CCX のログ ファイル」 (P.4-10)
- 「Cisco Desktop Product Suite インストール ログ」 (P.4-11)
- 「Cisco Unified CCX Log Collection Tool」 (P.4-12)

トレース ファイルについて

トレース ファイルは、Cisco Unified CCX コンポーネントからのアクティビティを記録するログ ファイルです。トレース ファイルを使用して、問題のトラブルシューティングに役立つ、システムに関する具体的な詳細情報を入手できます。

Cisco Unified CCX システムは、すべてのコンポーネント サブファシリティのトレース情報を生成できます。この情報はトレース ファイルに保存されます。トレース ファイルのサイズを制御するには、情報を収集するコンポーネントおよびサブファシリティと収集する情報のレベルを指定します。

Cisco Unified CCX システムでは、システムで実行されているすべてのスレッドに関する情報も生成されます。この情報は、スレッド ダンプ トレース ファイルに保存され、トラブルシューティングの際に役立ちます。

コンポーネントのトレース ファイル

次の Cisco Unified CCX コンポーネントにトレース ファイルを作成できます。

- Cisco Unified CCX エンジン
- Cisco Unified CCX Administration
- Cisco Unified CCX Editor
- Cisco Unified CCX Node Manager
- Cisco Unified CCX SQL サーバ

コンポーネントのトレース ファイルには、コンポーネントの各サブファシリティに関する情報が含まれます。このトレース ファイルを設定するための一般的な手順は、次のとおりです。

- 「コンポーネントのトレース ファイルの設定」(P.4-2)
- 「トレース レベル オプション」(P.4-3)

トレース ファイルの読み取りについては、「トレース ファイルの表示および解釈」(P.4-8) を参照してください。

コンポーネントのトレース ファイルの設定

デフォルトでは、Cisco Unified CCX システムはサブファシリティに関する情報を、CiscoMIVRnn.log などのトレースファイルに送信します。nn は、01 から始まる数値に置き換えられます。トレース ファイルのサイズを設定できます。設定したサイズに達するか、Cisco Unified CCX コンポーネントを再起動すると、新しいトレース ファイルが作成され、nn が 1 つ増えます。10 番目のファイルが作成されると (デフォルト)、トレース ファイルは、最初に作成されたファイルから既存のファイルを上書きしません。

ここに示す例は、Cisco Unified CCX エンジン コンポーネント用です。他のコンポーネントの場合は、コンポーネント名を置き換えて同じ手順に従ってください。

これらのデフォルトのトレース ファイル パラメータを変更する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CCX Administration] メニューから [System] > [Tracing] を選択します。
[Trace Configuration] ページが表示されます。
- ステップ 2** ナビゲーションバーからコンポーネントを選択し、展開します。
- ステップ 3** 必要に応じて、[Trace File] の下で次の情報を変更します。
- **Trace File Output** : トレース ファイルに情報を送信するには、このチェックボックスをオンにします。トレース ファイルに情報を送信しない場合は、このボックスをオフにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
 - **File Name** : トレース ファイルのベース名と拡張子を入力します。トレース ファイル名は、ベースファシリティ名、ファイル番号、および拡張子で構成されます (例 : CiscoMIVR01.log)。デフォルトのファイル名は、**Cisco<facility_code>.log** です。
<facility_code> は、MIVR、MCVD、MADM、MEDT または MARC です。
 - **Number of Trace Files** : 既存ファイルの上書きを開始するまでにシステムが作成するトレース ファイル数を入力します。システムは、既存のファイルが [Trace File Size] フィールドで指定されたサイズに達すると新しいトレース ファイルを作成します。デフォルトのトレース ファイル数は 10 です。

- **Trace File Size** : トレース ファイルのファイル サイズを設定できます。つまり最大サイズをバイト数で入力できます。デフォルトのファイル サイズは **1048576** です。

ステップ 4 [Update] をクリックします。

トレース レベル オプション

トレース ファイルは、Cisco Unified CCX コンポーネント サブシステムおよびステップからのアクティビティを記録するログ ファイルです。トレース ファイルを使用して、問題のトラブルシューティングに役立つ、システムに関する具体的な詳細情報を入手できます。

Cisco Unified CCX システムは、すべてのサブファシリティのトレース情報を生成できます。この情報はエンジン トレース ファイルに保存されます。エンジン トレース ファイルのサイズを制御するには、情報を収集するサブファシリティと収集する情報のレベルを指定します。

Cisco Unified CCX システムでは、システムで実行されているすべてのスレッドに関する情報も生成されます。この情報は、スレッド ダンプ トレース ファイルに保存され、トラブルシューティングの際に役立ちます。

Cisco Unified CCX エンジンなどのコンポーネントに関するすべての情報を記録するトレース ファイルは大きくなり、読み取りが難しくなることがあります。トレース ファイルを管理しやすくするために、Cisco Unified CCX システムでは、情報を記録するサブファシリティを指定できます。これらのサブファシリティを次の表に示します。

サブファシリティごとに、[Debugging]、[Alarm Tracing]、両方、選択なしのトレース レベルを選択できます。これらの選択項目では、システムがトレース ファイルに送信するメッセージを指定します。

表 4-1 に、各トレース レベル設定の効果を示します。メッセージの重大度の説明については、「[Cisco Unified CCX アラーム サービス](#)」(P.3-1) を参照してください。

表 4-1 トレース ファイルに送信されるメッセージ

選択項目	送信されるメッセージの重大度	説明
Debugging	0, 1, 2, 3, 7	詳細な情報を送信します。主に、デバッグとトラブルシューティングに使用します。
Alarm Tracing	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6	詳細なデバッグ情報を除く、すべての重大度のメッセージを送信します。
Debugging と Alarm Tracing	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	すべての重大度のメッセージを送信します。
選択なし	0, 1, 2, 3	優先度の高い通知、エラー、アラートを送信します。

[Trace Configuration] ペインでは、トレース レベル オプションが次のリストに分類されています。

- **アクティブ トレース レベル オプション** : システムで実行されるファシリティおよびサブファシリティ
- **非アクティブ トレース レベル オプション** : システムで実行されていないファシリティおよびサブファシリティ

アクティブ ファシリティで変更を加えると、トレース ファイルは、変更を即座に反映します。非アクティブ サブファシリティで変更を加えると、変更は、そのサブファシリティがアクティブになったときに反映されます。



警告

レベル 7 のトレースはデバッグのみで、システムの問題は反映されません。

Cisco Unified CCX トレース ライブラリを使用するすべてのアプリケーションで Syslog ファシリティコードが使用されます。表 4-2 に、トレース ファイルのファシリティと説明を示します。

表 4-2 トレース ファイル ファシリティ

ファシリティコード	説明
MIVR	ワークフロー アプリケーション フレームワーク
MCVD	クラスタ フレームワーク
MADM	[Cisco Unified CCX Administration] ページ
MEDT	エディタ

表 4-3 に、トレース ファイルのサブファシリティを示します。

表 4-3 トレース ファイルのサブファシリティ

サブファシリティ コード	説明
AC_CLUSTER	アーカイブ クラスタ コンポーネント
AC_CONFIG	アーカイブ コンフィギュレーション コンポーネント
AC_DATABASE	アーカイブ データベース コンポーネント
AC_JTAPI	JTAPI アーカイブ コンポーネント
AC_OS	アーカイブ オペレーティング システム コンポーネント
AC_CALABRIO	CAD/CSD アーカイブ コンポーネント
ADM	管理クライアント
ADM_CFG	管理コンフィギュレーション
APP_MGR	Applications Manager
ARCHIVE_MGR	Archive Manager
AW_CFG	Restore Administration Configuration
BARBI_CLI	Backup and Restore Client Interface
BOOTSTRAP_MGR	Cisco Unified CCX Bootstrap Manager
CFG_MGR	Configuration Manager
CHANNEL_MGR	Channel Manager
CLUSTER_MGR	Cluster Manager
CONTACT_MGR	Contact Manager
CONTACT_STEPS	Contact ステップ
CRA_CMM	Cisco Unified CCX ClusterMsgMgr
CRA_HRDM	Cisco Unified CCX Historical Reporting Data Manager
CVD	クラスタ ビュー デーモン
DB	データベース
DBPURGE_MGR	Database Purge Manager

表 4-3 トレース ファイルのサブファシリティ (続き)

サブファシリティ コード	説明
DESKTOP	Cisco Unified CCX Editor Desktop
DOC_MGR	Document Manager
EDT	Cisco Unified CCX Editor 一般
ENG	Cisco Unified CCX エンジン
EXECUTOR_MGR	Executor Manager
EXPR_MGR	Expression Manager
FILE_MGR	File Manager
GENERIC	ファシリティの汎用カタログ
GRAMMAR_MGR	Grammar Manager
GRP_CFG	Group Configuration
HOLIDAY_MGR	Holiday Manager
HR_MGR	Historical Reports Manager
ICD_CTI	Cisco Unified CCX CTI サーバ
ICD_HDM	IPCC Express Historical Data Manager
ICD_RTDM	Cisco Unified CCX Real-Time Data Manager
IO_ICM	Cisco Unified ICME Input/Output
JASMIN	Java Signaling and Monitoring Interface
LIB_APPADMININTERCEPTOR	Cisco Unified CCX Administration Interceptor Library
LIB_AXL	AXL Library
LIB_CFG	Configuration Library
LIB_CRTP	CRTP Library
LIB_DATABASE	Database Library
LIB_DIRECTORY	Directory Access Library
LIB_EVENT	Event Message Library
LIB_ICM	Cisco Unified ICME Library
LIB_JASPER	Jasper Tomcat Library
LIB_JCUP	JavaCup Library (式の解析用)
LIB_JDBC	JDBC Library
LIB_JINI	JINI サービス
LIB_JMAIL	Java Mail Library
LIB_JLEX	JLEX Library (式の解析用)
LIB_LICENSE	License Library
LIB_MEDIA	Media Library
LIB_RMI	Java Remote Method Invocation Library
LIB_SERVLET	Servlet Library
LIB_TC	Tomcat Library
LOG_MGR	Log Manager
MRCP_CFG	MRCP Configuration

表 4-3 トレース ファイルのサブファシリティ (続き)

サブファシリティ コード	説明
MGR_MGR	Manager Manager
NODE_MGR	Node Manager
PALETTE	Editor Palette
PROMPT_MGR	Prompt Manager
PURGING	ページ
RPT	報告
RTPPORT_MGR	RTP Manager
SCRIPT_MGR	Script Manager
SESSION_MGR	Session Manager
SIP_STACK	SIP Stack ログイン
SOCKET_MGR	Socket Manager
SS_APP	Application サブシステム
SS_CM	Contact Manager サブシステム
SS_CMT	Cisco Media Termination サブシステム
SS_DB	データベース サブシステム
SS_EMAIL	E メール サブシステム
SS_ENT_SRV	エンタープライズ サーバ サブシステム
SS_HTTP	HTTP サブシステム
SS_ICM	Cisco Unified ICME サブシステム
SS_MRCP_ASR	MRCP ASR サブシステム
SS_MRCP_TTS	MRCP TTS サブシステム
SS_OUTBOUND	Preview Outbound Dialer Express サブシステム (MIVR ログ ファイルを使用)
SS_RM	Resource Manager サブシステム
SS_RMCM	Resource Manager Contact Manager サブシステム
SS_RTR	リアルタイム報告サブシステム
SS_SIP	SIP サブシステム
SS_TEL	JTAPI サブシステム (テレフォニー)
SS_VB	音声ブラウザ サブシステム
SS_VOIPMON_SRV	Voice over IP Monitor Server サブシステム
STEP_CALL_CONTROL	Call Control ステップ
STEP_ENT_SRV	Enterprise Server ステップ
STEP_MEDIA_CONTROL	Media Control ステップ
STEP_SESSION	Sessions ステップ
STEP_SESSION_MGMT	Session Management ステップ
STEP_USER	User ステップ
STEP_CALL_CONTACT	Call Contact ステップ
STEPS_CONTACT	Contact ステップ

表 4-3 トレース ファイルのサブファシリティ (続き)

サブファシリティ コード	説明
STEPS_DB	Database ステップ
STEPS_DOCUMENT	Document ステップ
STEPS_EMAIL	E-mail ステップ
STEPS_GENERAL	General ステップ
STEPS_GRAMMAR	Grammar ステップ
STEPS_HTTP	HTTP ステップ
STEPS_ICM	Cisco Unified ICME ステップ
STEPS_IPCC_EXP	Cisco Unified CCX ステップ
STEPS_JAVA	Java ステップ
STEPS_PROMPT	Prompt ステップ
STEPS_SESSION	Session ステップ
STEPS_USER.ALARM	User Alarm ステップ
USR_MGR	User Manager
WEB_STEPS	HTTP Contact ステップ

Cisco Unified CCX 製品を 7845 マシンで実行し、トレースをオン (デフォルト) にした場合は、[Busy Hour Call Completions (BHCC)] を 1 時間あたり 4500 コールに制限してください。高い BHCC を実行する場合は、デバッグ トレースをオフにしてください。オフにするトレース サブファシリティは、ICD_CTI、SS_TEL、SS_RM、SS_CM、および SS_RMCM です。

トレース レベル オプションの設定

トレース レベル オプションを設定する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CCX Administration] メニューから [System] > [Tracing] を選択します。
[Trace Configuration] Web ページが表示されます。
 - ステップ 2** 対象の Cisco Unified CCX コンポーネントの下で、ナビゲーション バーから [Trace File Configuration] を選択します。
 - ステップ 3** [Active] および [Inactive] トレース レベル オプション リストの対象のボックスをオンまたはオフにします。
 - ステップ 4** [Update] をクリックします。
 - ステップ 5** [Inactive] トレース レベル オプション リストに変更を加えた場合は、Cisco Unified CCX エンジン を停止してから再起動し、トレース ファイルの変更を反映させる必要があります。
-

トレース ファイルの表示および解釈

Cisco Unified CCX サーバは、Cisco Unified CCX コンポーネントをインストールしたディレクトリの Log ディレクトリにトレース ファイルを保存します。[Cisco Unified CCX Administration] メニューから、すべてのトレース ファイルのリストを表示し、トレース ファイルの内容を表示できます。

トレース ファイルの表示

Cisco Unified CCX コンポーネントのトレース ファイルを表示する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CCX Administration] メニューから [System] > [Tracing] を選択します。
[Trace Configuration] Web ページが表示されます。
- ステップ 2** ナビゲーション バーからコンポーネントを選択して展開し、[Trace Configuration] を選択します。
サブファシリティ カテゴリのリストが表示されます。
- ステップ 3** サブファシリティのカテゴリを展開し、対象のサブファシリティのデバッグ レベルを選択して [Update] をクリックします。
別ウィンドウにトレース ファイルが表示されます。
-

トレース ファイルの解釈

トレース ファイルには、標準 Syslog フォーマットの情報が含まれます。ファイルには、記録されたイベントごとに次の情報の一部またはすべてが含まれます。

- 行番号
- イベントの発生日時
- ファシリティおよびサブファシリティ名
- 重大度
- メッセージ名
- 説明
- パラメータと値

スレッド ダンプ トレース ファイル

スレッド ダンプ トレース ファイルの名前は `JVM.log` です。Cisco Unified CCX サーバの Cisco Unified CCX エンジンインストール先ディレクトリの Log ファイルに保存されます。このファイルには、Cisco Unified CCX システムで実行されているすべてのスレッドに関するスタック トレース情報が含まれます。必要に応じて、このファイルに情報を書き込めます。また、重大なシステムの問題が検出されると、その情報がこのファイルに自動的に書き込まれます。新しい情報が生成されると、既存のスレッド ダンプ ファイルに追加されます。



(注)

メモリ ダンプ ファイルもあります。このファイルは、Cisco Unified CCX Administration のスレッド ダンプ ファイルと同じ場所にあります。 `memory<timestamp>.log` というタイプのメモリ ダンプ ファイルが作成されます。

スレッド ダンプ トレース ファイルへの書き込み

スレッド ダンプ トレース ファイルに手動で書き込む手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [Cisco Unified CCX Administration] メニューから [System] > [Control Center] を選択します。
[Control Center] Web ページが表示されます。
- ステップ 2** [Servers] をクリックし、ナビゲーション バーからサーバのホスト名を選択します（選択されたサーバではない場合）。
- ステップ 3** 上部にある [Server Traces] をクリックし、スレッド ダンプをイネーブルにするコンポーネントを選択します。
- ステップ 4** [Dump Threads Trace] をクリックします。

スレッド ダンプ トレース ファイルの表示

スレッド ダンプ トレース ファイルを表示する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [Cisco Unified CCX Administration] メニューから [System] > [Control Center] を選択します。
[Control Center] Web ページが表示されます。
- ステップ 2** [Servers] をクリックし、ナビゲーション バーからサーバのホスト名を選択します（選択されたサーバではない場合）。
- ステップ 3** 上部にある [Server Traces] をクリックし、スレッド ダンプをイネーブルにするコンポーネントを選択します。
- ステップ 4** [Dump Threads Trace] をクリックします。
- ステップ 5** [File Name] 列で、[JVM.log] をクリックします。
別ウィンドウにトレース ファイルが表示されます。

Cisco Unified CCX のログ ファイル

Cisco Unified CCX ログ ファイルは、問題のトラブルシューティングに役立ちます。表 4-4 に、さまざまな Cisco Unified CCX コンポーネントのログ ファイルに関する情報とログ ファイルのパスを示します。

表 4-4 Cisco Unified CCX ログ ファイル

コンポーネント	パス	ファイル/拡張子
MSI インストーラ	¥ (ルート)	<ul style="list-style-type: none"> CiscoUnifiedCCXMsiInstallLog.txt CallInstall.log CiscoUnifiedCCXMsdeInstallLog.txt CiscoUnifiedCCXAutorun.log CiscoUnifiedCCX-BARSJVMinstallLog.txt SQLInstallLog.txt CiscoUnifiedCCXMsiUnregister.log UpdateTool.log CiscoUnifiedCCXPatchInstallLog.txt CiscoUnifiedCCXJREInstallLog.txt
クラスタ ビュー デーモン (CVD)	¥Program Files¥wfavvid¥log¥MCVD¥	*.log
データベース	¥Program Files¥wfavvid¥log¥ReplLogs¥	*.log
ADS / HDS / RDS	¥Program Files¥Microsoft SQL	*.log
Cisco Unified CCX SQL サーバ ログ	Server¥MSSQL\$CRSSQL¥LOG¥	*.log
Cisco Unified CCX Administration	¥Program Files¥wfavvid¥log¥MADM¥	*.log
エンジン、driverManager	¥Program Files¥wfavvid¥log¥MIVR¥	*.log
JTAPI	¥Program Files¥wfavvid¥log¥JTAPI¥	*.log
Cisco Unified CCX Editor	¥Program Files¥wfavvid¥log¥MEDT¥	*.log
アーカイブ ツール	¥%TEMP%¥ log¥MARC¥	*.log
Serviceability コンポーネント		
1. アラーム サービス 2. SNMP SYSApp 3. SNMP CDP	1. ¥Program Files¥Cisco¥AlarmService¥AlarmServiceLog¥ 2. ¥Program Files¥Cisco¥AlarmService¥Log ¥ALARM¥ 3. ¥Program Files¥Cisco¥bin¥	1. *.log 2. SnmpSysAppImpl.log 3. SnmpCdpImpl.log

表 4-4 Cisco Unified CCX ログ ファイル (続き)

コンポーネント	パス	ファイル/拡張子
トランザクション コンポーネント		
1. Transaction Manager の Persistence ディレクトリ (このディレクトリを削除または変更しないでください)	1. %Program Files%\wfavvid %txnMgrPersistence	1. 内部のすべて
2. Transaction Manager の Persistence Backup ディレクトリ	2. %Program Files%\wfavvid %txnMgrPersistence_old	2. 内部のすべて
3. Transaction Manager の State ディレクトリ (このディレクトリを削除または変更しないでください)	3. %Program Files%\wfavvid %BSTxState	3. *.per と *.old

Cisco Desktop Product Suite インストール ログ

Cisco Desktop Product Suite, Version 6.4、ログ ファイルを検索する必要がある場合は、この項を参照してください。

各種ログ ファイルの場所は次のとおりです。

- Install Manager のログ ファイルは、C: ドライブのルートにあります。
ファイルは次のとおりです。
 - IM<number>.dbg。<number> の範囲は 0001 ~ 0010 です (IM0001.dbg)。
 - IM<number>.log
- InstallShield サイレント インストール ファイルは C:%Winnt にあります。
 - splk_<project>.log。<project> は、splk_base.log などの Desktop インストール プロジェクトです。
- InstallShield のインストールおよびアンインストールのデバッグ ファイルは、<Program Files>%Cisco%Desktop%IM にあります。
ファイルは次のとおりです。
 - splkInstall_<version>.dbg。<version> は、Desktop ソフトウェア バージョンで、splkInstall_6.4.0.20.dbg のようになります。
 - splkInstall_Obj_<version>.dbg。<version> は、Desktop ソフトウェア バージョンで、splkInstall_Obj_6.4.0.20.dbg のようになります。

Desktop のアンインストール後、ログ ファイルは次の場所に置かれます。

- Install Manager ファイルは、アンインストールでリブートされるまで上で定義した場所に置かれ、リブート後システムから削除されます。
- InstallShield サイレント アンインストール ファイルは、BootUp ドライブのルートに置かれます。
- InstallShield のインストールおよびアンインストール デバッグ ファイルは、C: ドライブのルートに置かれます。

Cisco Unified CCX Log Collection Tool

Cisco Unified CCX Log Collection Tool を使用すると、表示するすべてのログ ファイルを 1 つの zip ファイルに収集できます。ツールをリモートで実行し、zip ファイルを Cisco Unified CCX サーバから自分のデスクトップやネットワーク デバイスに移動することもできます。

Log Collection Tool を使用してログ ファイルを zip ファイルにまとめる手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** Cisco Unified CCX Log Collection Tool にアクセスするには、[Start] > [Programs] > [Cisco Unified CCX Administrator] > [Cisco Unified CCX Log Collection Tool] の順に選択します。

次の警告メッセージが表示されます。



警告

Log Collection Tool はシステム パフォーマンスに影響する可能性があるため、オフピーク時に実行してください。システムのバックアップまたは復元中にこのツールを実行しないでください。Cisco Unified CCX サーバのディスク スペースを節約するには、ネットワーク ドライブに zip ファイルを作成します。あるいは、ファイルの取得後に Cisco Unified CCX サーバから zip ファイルを削除します。zip ファイルのファイル サイズを制限するには、Log Collection Tool Advanced Options を使用して、開始日時と終了日時、コンポーネントのサブセットを選択します。

- ステップ 2** メッセージを読み、同意したら [OK] をクリックします。
[Cisco Unified CCX Log Collection Tool] ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 3** 作成する zip ファイルのパスと名前を入力し、[Save] をクリックします。これで、システムのすべてのログ ファイルが zip ファイルに収集されます。ファイル数を日付、時刻、およびコンポーネント別に制限する場合や、zip ファイルに別の場所を選択する場合は、[Advanced Options] チェックボックスをオンにします。詳細オプションのダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 4** 日時でログ ファイルの収集を制限する情報を入力します。ログ ファイルを収集するコンポーネントのチェックボックスをオンにし、[Source Drive] フィールドの横にある [...] ボタンをクリックして、zip ファイルを移動する場所を表示します。zip ファイルの場所を選択します。その場所が、[Source Drive] フィールドに表示されます。[Save] をクリックします。
ネットワーク ドライブではなく Cisco Unified CCX システムの場所を選択すると、続行するかどうかを尋ねる警告が表示されます。
- ステップ 5** ファイルを Cisco Unified CCX システムに保存する場合は [Yes] をクリックします。戻ってネットワーク ドライブ上の別の場所を選択する場合は、[No] をクリックします。
[Yes] をクリックすると、実際に zip ファイルを書き込む前に、zip ファイルが使用する予測ディスク容量を示すダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 6** 続行する場合は [Yes] をクリックします。zip ファイルへのログ ファイルの収集を中止する場合は [No] をクリックします。
ログ ファイルの収集中、進行状況を示すダイアログ ボックスが表示されます。